

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部文科一類2年

参加プログラム: Berkeley Summer Sessions (Regular Courses)

派遣先大学: UC Berkeley

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界:プロ野球関連) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

アメリカ合衆国、カリフォルニア大学バークレー校。サンフランシスコ国際空港から BART(電車)で約1時間。カリフォルニアを代表する有名大学の一つ。過去50人以上のノーベル賞受賞者を輩出するなど、学問的水準の高さで世界的にも有名。学生数は3万人を超え、かなりの規模を誇る。

参加した動機

日頃の英語学習の成果をネイティブに囲まれた環境で試し、かつ英語力をさらに養成したかった。また、後期課程で教養学部教養学科地域文化研究分科北アメリカ研究コースへの進学を考えているため、最終決定を下す前にアメリカ現地の雰囲気を知っておきたかった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

本部国際交流課からプログラム参加が認可され次第、留学先の大学に関する手続きをすぐ開始することをおすすめする。授業によっては人気が高くすぐに枠が埋まり、希望する授業を選択できない可能性がある。また滞在先として大学関連の寮を希望する場合、並行して手続きを進めなければこちらも枠が埋まってしまう。何か疑問点が生じた場合などもメールを送って返信が来るのに1日は要するので、早めに行動するに越したことはない。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

留学先の大学から送られてくる I-20 という書類を使って F-1 という種類のビザを取得。手続きに必要な書類が多いだけでなく、それぞれの手続きが煩雑であるため、こちらも時間に余裕を持って作業を進めたほうがよい。ビザ関連手続きには予想していたよりもかなり長い時間を要した。ウェブで検索すればビザ申請に必要な書類のリストは手に入る。実際に審査で使用されたかは不明であるが、最終学歴の成績証明書(英文)も用意することになるので、実家生以外は多少面倒かもしれない。プログラム開始が近い場合は I-20 が届いてから準備を始めたら多少焦る可能性があるため、用意できる書類はあらかじめ揃えておくことをおすすめする。特に残高証明書(英文)や前述の成績証明書は申請してから発行までに1週間ほどかかる場合があるので、注意してほしい。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

最近体調を崩したことはなかったので、特に健康診断を受けたりはしなかった。軽い風邪や腹痛に備えて常備薬だけは用意した。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

損害保険ジャパン日本興亜株式会社の新・海外旅行保険【off!】に加入。いくつかのオプションの中で各保険金額が最も充実しているものを選択した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

進級に必要な単位はほとんど揃えていたので、最低限の授業のみを履修し、留学準備期間から帰国後までの負担を最小限にした。出席が重要視される授業に関しては事前に教官に相談し、特別に課題を与えてもらった。プログラム終了後は期末試験を控えているためすぐに帰国した。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

プログラムの申請には2年前に受けた TOEIC(Total855, Reading455 Listening400)の点数を使用。留学前の3月に受けた IELTS は 6.5(Reading8.0 Listening6.5 Writing6.0Speaking5.5)だった。英語を使う職業に就きたいと考えているので、日頃から BBC や MLB.com の記事を読む、海外ドラマを英語音声・字幕なしで繰り返し見るなど英語に絶えず触れていた。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

荷物に余裕があれば歯ブラシや歯磨き粉、シャンプー、石鹸などを持っていくとよい。買い物の手間を省けるし、ちょっとした節約にもなる。また、授業指定の教科書がある場合、Amazon などを使って先に準備しておくともよい。現地の本屋には置いていない場合が多いし、授業単位で教科書をまとめて購入するようなことはおそらくなく、多少面倒である。食事が合わないことも大いに考えられるので、簡単な日本食やお茶などを持っていくと心強いかもしれない。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

1つは社会福祉に関する授業を選択。授業はプレゼン形式で、学生にも2つのプレゼンが課された。宿題は教科書の指定された箇所を読み、問いに答えるというもの。期末試験はなく、その代わりに自分で選んだ本について授業内容を参照しながら1,500語程度のレポートを書く課題を出された。

もう1つは地理に関する授業を選択。授業はフィールドワーク形式で、オークランドやサンフランシスコなどの街を歩きながら特徴的な建築やその歴史を学んだ。宿題は6回のフィールドワークの中から2回を選び、それぞれについて500語程度のエッセイを書くというもの。期末試験はなく、その代わりに自分で選んだ本についてフィールドワークを参照しながら1,000語程度のレポートを書く課題を出された。

②学習・研究面でのアドバイス

課されるリーディングの量が膨大であることはおそらくどの授業についても言えるので、指定された本があれば早めに入手し、計画的に読み進めたほうがよい。学内の図書館では落ち着いて学習できると思うが、週末は開いていなかった。ダウンタウンには土日でも利用できる公立図書館があるので、うまく活用させてもらった。

③語学面での苦勞・アドバイス等

自分の予想に反してネイティブの学生が圧倒的に多く、容赦のない授業が展開された印象。授業はもちろん、日常生活でもリスニングには相当苦勞し、毎日かなりつらい思いをした。一方、自分の言いたいことを伝える方にはそこまで苦勞しなかったため、留学前に勉強するならリスニング面を徹底的に鍛えることをおすすめする。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Berkeley Student Cooperative (BSC) という組織が運営する Stebbins という寮に住んだ。家賃は860ドルと他のオプションと比べたら格安。ただ、相部屋・共用シャワー・共用キッチンという環境でプライバシーが守られるとは言い難く、夜遅くまで話し声が響くことも多々あったので、一人になれる時間を大事にする自分にとってはストレスがたまりやすい環境だった。建物自体も汚く、キッチンにはハエが飛ぶなど衛生的にも多少問題があった。入居者には週3時間の労働などちょっとした義務が課されるため、せつかくの留学期間に時間を拘束されるのを嫌う人にはおすすめできない。自分以外の入居者はほぼ全員ネイティブで、会話に割って入っていくのは難しかったが、いい経験にはなった。はっきり言うと、多少お金がかかってもより良い環境に住んだ方がプラスになる要素は多いと思ったので、BSCに住むという選択は失敗だった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候について、朝晩は冷え、日中は涼しいので、日本と同じ気候を想定していたら寒く感じるかもしれない。気温はそこまで高くないが、日差しは強いので外で活動するときはサングラスや帽子もあるとよい。大学周辺は落ち着いた雰囲気ので治安もよいと言われているが、路上には浮浪者や乞食も目立ち、外を歩く時には注意するに越したことはない。飲食店やスーパー、本屋などが充実し、生活に困ることはない。寮が大学に近かったので通学や買い物に交通機関は利用しなかったが、オークランドやサンフランシスコなど近郊の都市に出かけるときはBARTを利用した。学生証を提示すればACトランジットというバスは無料で乗れる。食事は慣れないうちは外食に頼っていたが、徐々に自炊の頻度も増やしていった。お金について、日本で400ドルを用意して、クレジットカードと併用した。現金のみしか使えない場面は限られているが、友達と割り勘をする時などに備えて一応持っておくと安心である。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

前述の通り、一人の時間を確保できず精神的に落ち着けない時があったので、図書館やカフェなど比較的静かな環境で好きな音楽を聴きながら作業をするなどして気持ちの安定に努めた。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費: 約10万

授業料: 事務手続きの手数料などを含めて約36万

家賃: 約10万

生活費: 約15万

観光も兼ねていたため大学外で過ごすことも多く、また物価も日本より断然高いので予想以上にお金がかかった。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

プログラム付属の奨学金を受給

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

学内のジムは1学期につき10ドルで利用可能だったので、週2,3回通った。授業のない日はサンフランシスコの繁華街や観光地を徒歩で散策。オークランドとサンフランシスコでMLB観戦。ツアーを利用してヨセミテ国立公園に1泊2日で旅行。運動できる準備はしていったが、気軽にスポーツをできる機会は自分の知る限りではなかった。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

重要事項はすべてメールで通達される。疑問点がある時はメールに返信すれば数日で回答が来た。授業はある程度熟達した英語力が前提(事前にメールで確認された)とされているので語学面でのサポートはおそらくないと思われ

る。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館はキャンパス内にいくつもあり学生であれば誰でも利用可能。しかし開館時間は 9 時から 5or6 時までと多少短く、夜まで勉強することはできなかった。パソコンも設置されている。キャンパス内に食堂はなく、周辺の飲食店を利用する形に。キャンパス内ではどこでも CalVisitor という Wi-Fi を利用可能。前述の通り、学内のジムは 1 学期 10 ドルで利用可能。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

プログラムの意義として一番大きいのはアメリカのトップクラスの大学ではどのような授業が展開されているか肌身を通して実感できることにあると思う。教官と学生の交流が重視される、プレゼンなど自分の考えを発信する能力を要求される、宿題としてなかなかの量の読書を課されるなど、試験が評価の大部分を占める日本の授業とはまた一味違った体験をできた。また、実際にアメリカで生活する中でかなりの文化的差異を感じた。渡航前から多少は覚悟していたが、食や衛生、美化に対する意識の低さには相当頭を悩まされた。野球場では座席の下にピーナッツの殻や空き容器などのゴミが平然と捨てられている光景は日本ではありえないもので、本当に驚かされた。同じ寮に住む学生たちを含めアメリカの学生はどちらかと言えば落ち着きがなく(特に週末は午前 2, 3 時まで酒を飲んだりマリファナを吸ったりして騒いでいる)、アジア出身の学生のほうが落ち着いていて日本人に近い印象を受け、アジア人はアジア人同士で固まりがちであるという言説にも頷けた。日本と違ってアメリカでは学生同士のルームシェアは一般的であり、完全に一人になれる時間が保障されないことが個人的には一番堪えた。このような差異を感じる事が今回の留学の大きな目標の一つだったので、いい経験になった。英語に関しては留学前の予想通り、リスニングに相当苦しめられた。寮で他の学生の話を書く時、授業で講義を聞く時、飲食店で注文について質問される時、自分から何か質問をしてその返事を聞く時、と各場面で相手の言っていることを完全に理解できることのほうが少なかった。また、指示を受けて何かやる時にも自分の解釈が本当に間違っていないかいつも不安になっていた。このような状況の積み重ねで自分の性格のせいかもしれないが常にストレスを感じながら生活していたので、恥ずかしながら日本に帰りたくなる時が多々あった。一方で、自分の言いたいことは言葉を選びながらではあるがだいたい伝えることはできたので、英語をある程度話せるという自信はついた。今回の留学で得たつらい経験と自信は、今後の英語学習のモチベーションになるとともに、厳しい状況を自分の力で打破するための糧にもなると思う。言葉も満足に理解できないまま異文化の中で暮らし、ある程度の成果が求められる人間の気持ちは痛いほどわかったので、自分が将来の夢であるプロ野球選手の通訳として働く時が来れば必ず役に立つと思う。

②参加後の予定

当初の予定通り、教養学部教養学科地域文化研究分科への進級を希望。後期課程進級後の 10 か月の交換留学への応募を見越しての今回のプログラムへの参加だったが、想像以上に苦しい生活を強いられたので、他に集中して英語を練習できる環境は作れないか再検討する予定。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

個人的には、授業以外の場面において誰か親しい人に頼ることなく一人でいろいろやってみることが経験の大部分を占めているので、今後留学を考えている人にはよくわからないなりに自分で積極的に動く姿勢を大切にしたい。とりあえず留学に参加するだけでも人それぞれ違ったものを感じることができると思う。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

ビザ申請に関して http://www.ustraveldocs.com/jp_jp/jp-niv-typefandm.asp

現地での歩き方について 地球の歩き方シリーズ サンフランシスコ

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):工学系研究科 修士2年

参加プログラム:Berkeley Summer Sessions 派遣先大学:UC Berkeley

卒業・修了後の就職(希望)先:5.民間企業(業界:コンサルティング)

派遣先大学の概要

5月下旬から8月までの夏学期をいくつかのセッションに分けてアメリカ国内の他大学や世界各国から学生を集め、それぞれのセッションで実際に正規の学生が受講している講義を集中講義の形で開講している。学生はそこからいくつか選択し、試験はもちろんのこと課題の提出や講義内のディスカッションやプレゼンテーションを通して評価され、成績がつく。

参加した動機

上述の通り、幅広い分野の中から興味や関心に応じて自分で履修する授業を選択できることが魅力的だった。修士論文の研究のために知見を広げること、就職に備えて短期間で集中的に基本的な財務会計の知識を得ることを目的としてこのプログラムに参加した。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

手続きのスケジュールは余り余裕が無いので常に早めの行動が必要になる。滞り場所の確保に苦労していた友人がいたので、特に寮やルームシェアには早めに申し込んだほうが良い。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

F-1ビザを取得した。手続きのためにインターネット上で膨大な量の情報を打ち込む必要があり、大使館での面接にも前もって予約が必要なので、期限から逆算するよりも必要な情報が手に入り次第すぐに手続きをしたほうが良い。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特に健康診断などは受けていない。(アメリカは歯科治療が高額なので治療を受けている人は注意が必要とプログラムのガイドブックに書いてあった。)

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学生協が推奨していたAIUの短期留学保険に加入した。

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学願、渡航届などを事前に専攻事務室に提出した。東大の授業は履修していなかったため特に必要な措置はなかった。

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

留学のための準備としてではないが、オンラインの英会話を受講していた。

⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

大学近くに日本の100円ショップチェーンの店があったので、買い忘れたものの大半はそこで手に入った。(ただし日本よりも少し高い)

プログラムの手続きや単位の評価方法などについての決まり事について膨大な量の資料が与えられるので、しっかりと目を通す必要がある。

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

私が受講した授業は2つとも最初に配布されるシラバスに各回に扱う内容やそのために必要になる予習事項、付随する提出課題などが指示されていた。実際の授業はほぼその通りに進められるため、計画を立てやすかった。課題の提出やそれに対するフィードバックなどのやりとりは全て全講義共通のポータルサイト上で行われ、各課題の評価や試験の結果など全ての情報がそのサイト上で確認できる。またそれらの情報がとても早く公開されることに驚いた。

② 学習・研究面でのアドバイス

短期集中講義という性質上、語句や概念の説明は最小限になる場合が多いので、事前に予備知識を頭に入れておくことが役立つことがある。

③ 語学面での苦労・アドバイス等

私が受講した授業は特に英語が母国語でない学生に対する特別な配慮はなかった。特にケーススタディーの授業では予習のために多めに時間をかけることで語学面の不安をカバーした。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

International House という寮で生活していた。6週間で\$3,000弱かかるので周りの寮に比べると高いが、それ相応の環境は整っている。例えば、この費用の中には寮の食堂で利用できる60食分のミールポイント(私も含めほとんどの友人が使い切れなかったほど十分な回数だった)や、併設のカフェで使える\$40分のチャージが含まれているのに加え、寮のオフィスが企画するイベントでは野球観戦や遊園地のチケットを通常の価格よりもかなり安い額で購入できた。ただし、大学が公式で紹介していることもあり毎年人気があるようで、申し込みの準備が整ったらすぐに申し込まないと部屋が埋まってしまう。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

5月下旬から7月上旬までの滞在だったが、基本的に涼しく雨もほとんど降らない過ごしやすい気候だった。ただ、朝

晩と日中の温度差が激しいため、半袖シャツだけでなくパーカーなどが必要。キャンパス周辺に大学グッズや安い服を扱う店があるので現地調達もできる。

私はほとんどの食事を寮でとっていたのであまり利用する機会がなかったが、大学周辺には安い飲食店がたくさんあった。生鮮食品を扱うスーパーもダウンタウンにいくつかあった。

基本的にキャンパス周辺に住む学生が圧倒的に多いので徒歩か自転車で通学する人が多かった。また、学生証を見せると AC Transit という Berkeley とその隣町の Oakland を中心に走っている路線バスに無料で乗れるのでこれも便利だった。サンフランシスコへは BART という鉄道か AC Transit で行くことができる。

ほとんどの場所でクレジットカードが利用できるので普段の生活にはそれほど現金は必要ないかもしれない。日本から両替していった現金と、日本で口座に入金すると海外の ATM で現地通貨の形で引き出せるキャッシュカードを利用した。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

キャンパス周辺に限って言えば、現地はサマータイムなので 8 時過ぎまで明るく、その時間帯までは学生も多いので特に問題はないと感じた。ただ街にはホームレスも多く、深夜になると酔っ払い(学生含む)が街を歩いたりする。歩きたくなければ上述した AC Transit が深夜まで運行しているのに加え、大学が提供しているシャトルバスも利用できる。

基本的な常備薬は日本から準備して持って行った。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃 15 万円、授業料 40 万円、教科書代 3 万円、家賃 35 万円

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO 奨学金付きのプログラムで、16 万円支給していただいた。

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

週末は寮の友人たちとサンフランシスコへ観光に出かけたり、ヨセミテ国立公園へ行くツアーに参加したりした。ただ、中間試験や期末試験前は平日だけでなく土日も準備をしないと間に合わないこともあった。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

日本からの手続きはオンラインでスムーズに進んだ印象がある。現地到着後も留学生向けの説明会があった。

履修した講義の中には履修生のほとんどが正規の学生だったものがあり、その授業ではディスカッションについていくのが大変だった。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

学生が料金を支払うことで利用できるジムがあると聞いた。図書館はキャンパス内に何箇所もあったが、日曜は全て閉館していた。私が通っていた Haas Business School は建物もきれいで、中にあったカフェは立地も良く値段も安かったのでよく利用していた。学内には学生向けの無線 LAN が整備されていて、通信速度も問題なかった。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

授業への参加を通じて、他国の学生の議論に対する姿勢や日本とは違うスタイルの講義の進め方に触れられ、今後の東大での講義へ参加の仕方や研究の進め方に良い影響があった。

寮生活では、短期間ではあったものの様々な国から来た学生と親交を深められ、各国の教育制度や食文化などといった幅広い話題について意見を交換できた。また彼らとの共同生活は、日本で当たり前のように行っていた習慣を相対的に見つめなおす機会になった。

今回のプログラム参加によって、将来何らかの形で海外で学ぶ機会を持ちたいという気持ちが強くなった。

③ 参加後の予定

東大での研究活動を継続し、修士課程を修了後民間企業に就職予定。

④ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

このプログラムは期間が短く、また講義の内容もほとんどが前提知識を必要としないものなので、他国の学生との交流や自分の専門分野以外の知見を深めるという目的の参加であれば充実した成果が得られる可能性が高い。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

東大の Go Global ウェブサイト

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):東京大学理科二類2年

参加プログラム:Berkeley Summer Sessions Regular Course Session E 派遣先大学:University of California, Berkeley

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 5.民間企業(業界:金融)

派遣先大学の概要

カリフォルニア州立大学の一部で、カリフォルニア州の中で最も長い歴史を持つ公立大学である。世界大学ランキングではトップ 10 常連。化学分野の研究は特にレベルが高く、バークレニウムという元素はこの大学にちなんで名づけられている。

参加した動機

将来の進路に海外も視野に入れたかったので、学部のなるべく早い段階から短期留学を経験し、自分に海外で暮らす能力があるのかどうか試したかった。試験が7月末までであったので、奨学金付きプログラムの中から日程的に参加可能なものを選んだ。また、海外の優秀な学生と知り合って刺激を受けたかった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

とにかく、参加が決まったら早く手続きを始めましょう。人気の授業は定員に達し次第締め切られます。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザはUCBから推奨された通りF-1(学生ビザ)を取得しました。申請に約4万円もかかります。観光ビザで入国してもさほど不利益があるとは思いません。発行手続きは1~2週間で終わりますが、これもなるべく早く済ませましょう。2015年は6月にビザシステムの故障が発生したため、ビザの発給が遅れ留学に支障が出た人がいました。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特にしていませんが、虫歯の治療はしていった方がいいそうです。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大から指定された保険に2つ加入しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

7月27日開始のプログラムだったので試験期間と5日間被っていたのですが、何とかなるだろうと思って応募しました。実際、総合科目で極力試験のないものを選んだので大丈夫でした。試験があったとしても、大半の先生が交渉に応じてくれます。履修登録の前に担当教官に確認しましょう。単位変換はできません。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

IELTSは1年生の時のスコアで6.5でした。英語は東大の中でも得意な方です。準備は特にしていません。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

日本のお菓子は何かと役立ちます。アメリカの飲み物は口に合わない可能性が高いので、お茶の粉を持っていくといいです。ガイドブックは日本語のものがいいと思います。テーブルタップも一つ持って行った方がいいです。日本の電化製品はそのままコンセントにつなげます。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

まず、Session Eの学生には英語以外の授業がほとんど開講されていません。大学の説明には書かれていませんが、事実上の語学留学です。Regular Courseで専門的なことをやりたいと思っている人は考え直した方がいいと思います。

僕は2つ授業をとったのですが、両方とも語学の授業でした。学生は8~9割が中国人で、国籍に関わらず学生はおおむね英語が上手ではありません。そのため、授業のレベルも東大の英語二列と同程度で退屈でした。宿題の量は先生によって大きく変わりますが、僕の取った授業は少なかったです。

②学習・研究面でのアドバイス

大したことはやらないのであまり心配する必要はないと思います。当たり前のことですが、同じクラスに日本語話者がいても、授業中は英語を使いましょう。

③語学面での苦勞・アドバイス等

僕は比較的英語が得意なので語学面で大きな苦勞はしませんでした。早口で話されたりくだけた表現で話されたりすると理解できないことが多かったです。行く前に映画などで慣れておくのがよかったのでしょうか。

学生の中には発音がひどくて聞き取れない人が一定数いたので、意思疎通が大変でした。グループワークを課されることが多いので、あまりに英語のできない人と組むと苦勞します。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Residence Hall Unit 2

3人部屋、3週間・1日1.5食分のミールポイント付きで1183ドルでした。バストイレ共用で、建物は比較的きれいです。僕の部屋は7階で眺めが素晴らしかったです。ただ、ルームメイトが2人も昼夜逆転の生活を送っていたので、何かと気を遣ってしまい部屋の居心地が悪かったです。建物にはランドリー、ラウンジ、ビリヤード、卓球台、ピアノがあります。ミールポイントは食堂(ビュッフェ形式)のほか、ジムの売店やキャンパス内のカフェなどでも使えます。僕は朝ごはんを食堂でしっかり食べ、果物を持ち帰って昼ごはんにしていました。晩ごはんは食堂で食べるか友達とレストランに行くかという感じでした。この生活スタイルだとミールポイントの数がちょうどいいです。

友人が住んでいた International House に何度か行く機会があったのですが、ここは Residence Hall よりも数段いい環境でした。建物が美しく、中もきれいで、食事もおいしく、イベントも毎晩のように開催されています。値段は Residence Hall より高めですが、それだけの価値はあると思います。キャンセル待ちでも意外と順番が回ってくるようなので、解禁され次第すぐに申し込むことを勧めます。

Session E の学生は本来 Residence Hall に泊まれないのですが、僕は後述の事情で特別に配慮していただきました。

最初は節約のため、UCB のサイトで紹介されていた Craigslist という掲示板で Sublet (個人間で短期間の賃貸契約を結ぶもの) を探していました。Sublet は安いのが大きな魅力ですが、個人交渉のため相手を信用できないので推奨できません。交渉中にほかの人と契約を結んでしまって交渉が破綻するということが何度も起こり、住居が一向に決まりませんでした。しかも、僕が最後に交渉した相手は詐欺師で、賃貸料とデポジットの計 1000ドルを Western Union で送金したところで連絡が途絶えてしまいました。1000ドルだまし取られた上、7月の段階で宿探しが振り出しに戻ってしまい、本当に大変でした。あとでわかったことですが、Western Union 経由の送金は詐欺の常套手段だそうです。もし Craigslist を使う場合には細心の注意を払ってください。

個人間の契約だと Airbnb というサイトもありますが、こちらは登録料がかかる分リスクが低いみたいです(詳しくは知らないのですが自分で調べてください)

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候はとて過ごしやすく安定しています。雨が降ることはめったになく(干ばつです)、昼間の気温は 25 度程度、夕方から夜にかけての気温は 20 度弱です。日中は半袖で大丈夫ですが、夕方からは冷え込むので上着を携帯しましょう。SF は日中でも冷えることがあります。

Berkeley は学生街で、街中を歩く人は半分以上が学生とホームレスです(笑) 食事は寮の食堂でとることもあれば、学校近くのレストランで取ることもありました。

お金は、日本から現金 2 万円を持って行って両替し、その後は現地の Citibank で必要なお金を降ろしました。僕はクレジットカードを持っていなかったのですが、絶対にあつた方がいいです。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

大学周辺の治安はおおむね良好ですが、Residence Hall のすぐ近くにある People's Park はホームレスのたまり場になっているのであまり近寄らない方が賢明です。大学南部は Oakland に近くなるにつれて治安が悪くなります。ちなみに、SF は治安があまり良くないので夜は歩きまわらない方がいいです。特に、Tenderloin という地区は昼間でも近寄らない方がいいらしいです。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

渡航費 12 万円

授業料 25 万円

家賃(ミールポイント込) 15 万円

ビザ取得費用 5 万円

滞在費・お土産代等 4 万円

合計 60 万円

(1ドル=120~125円でした。だまし取られた 1000ドルは入れていません)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東大生海外体験プロジェクトと JASSO から 8 万円ずつ、計 16 万円をいただきました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

課外は日本人の友人と過ごすことが多かったです。

Recreational Sports Facility というキャンパス内のジムが 10ドルで1セメスター使い放題だったので、頻繁に通いました。バスケットコートやプールなどもあってとても充実しています。用具も無料で貸し出してくれます。

週末は San Francisco に行くことが多かったです。AC Transit と Bear Transit というバスには学生証を見せれば無料で乗ることができ、SF までは前者のバスで行けます。SF は見所が多いのでガイドブックを参考にしてください。

また、SF からは BART と Cal Train という電車が出ており、Stanford University や Silicon Valley にはこれで行くことができます。

付近では他に Los Angeles や Las Vegas、Yosemite などが観光地として有名ですが、これらには車か飛行機でしか行けないので僕は断念しました。

その他、大学や寮では様々なイベントを開催しているので、現地で友人を作って情報交換し合うといいと思います。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

Session E の学生は何かと不利益を被ることがあるので覚悟してください。その最たるものが寮の申し込みで、大学が管理している 2 つの寮のうち、Residence Hall には申し込むことすらできず、International House には Session D が始まるまで申し込みができません(申し込んでも確実にキャンセル待ちになります)。そういった意味で、サポート体制が充実しているとは言い難いです。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館を使うことはあまりないと思いますが、一度見に行く価値はあります。ジムは前述の RSF が素晴らしく充実しています。食堂はないので、キャンパス内のカフェか近くのお店を利用してください。建物内ではほとんどの場合フリー WiFi が通っています。あと、キャンパス内の時計塔(Sather Tower)と植物園も一見の価値ありです。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

正直、英語は 3 週間ではさほど上達しません。ただ、海外で暮らしてみることには意味があると思います。短期留学なら気軽に参加できますし、それで海外生活に対するハードルを下げてしまえば、将来の選択肢を広げることができます。僕は今回の留学を経て、海外の大学院に行ったり海外で働いたりすることを本格的に検討するようになりました。

②参加後の予定

9 月から工学部計数工学科に進学します。卒業後の進路は未定です。海外も含めた大学院進学と就職の両方を視野に入れていきます。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学を経験したことのない方には、その後の進路選択に影響を与えると思うので、早いうちに留学することを強く勧めます。ただ、どうしても授業料や宿泊費が高額なので、安価なプログラムが他にあれば UCB にこだわる必要はないと思います。留学経験の豊富な方には、IARU などもう少しハイレベルなプログラムを勧めます。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

ウェブサイトは、公式サイトと留学体験記を頼りました。しかし、これらではわからないことが多々あったので、同じプログラムに行く人とメールで情報交換をしたりしました。出版物は『地球の歩き方』を購入しました。観光の時に便利です。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



クラスの仲間との集合写真



フィールドワークで行った農園での 1 コマ

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 薬学部・3年

参加プログラム: UC Berkeley Summer Session (Session C) 派遣先大学: UC Berkeley

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 ⑦.その他(未定)

派遣先大学の概要

数多くある University of California のうち Berkeley という街にある大学。系列校の中でも高いレベルを誇る。人から聞いた話なので確かではないが、毎年 2,3 万人ほどに学生が入学する大きな大学である。

参加した動機

小学生の時に 6 年弱海外でインターナショナルスクールに通っていた経験もあり、海外で学ぶことに強い興味を持っていた。さらに昨年の夏から海外への渡航を重ねたことをきっかけに海外で学んでみたいという意欲が高まり、今回のプログラムに参加することとなった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

とにかく開始時期に関わらず、進めることのできる手続きはいち早く進めることだと思います。また、わからないことがあった場合はためらわずに何でも東大や現地の大学の担当者にメールしてみてください。現地の担当者は海外の学生ということもあり、すばやくとても丁寧に対応してくれます。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザの申請についてはプログラムの参加手続きとあわせて早めに進めてください...! 私の場合、I-20 という書類を大学に申請してから実際に受け取るまでの時間が 2 週間弱かかった記憶があります。また、そろえるべき書類に十分注意してください。場合によっては 1 週間ほどかけてそろえる必要もあります。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

私は医師の治療を受けていたので、渡航に関しては相談しました。また歯科治療は渡航 1 か月前に親知らずを抜きました。現地で歯科治療はお金がかかってしまうのでチェックを受けるだけでも少し早目にするといいと思います。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学で指定の保険に加入しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

プログラム期間はすべて夏休み期間だったので、特に学部での手続きは必要ありませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

特に事前に英語を勉強するなどの準備はしませんでした。TOEFL を受験した結果もっとも得点の低かった項目は Speaking だったので、あまり対策はできませんでしたがそれこそ行って一番成長できる項目だと思ったのであまり不安はありませんでした。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

医薬品類はあまり現地で手に入れることを考えない方がよいと思います。それ以外に関しては現地でも買えるものがほとんどです。あまり心配しなくても大丈夫です。たとえばシャンプー類、洗剤等、また授業に使用するノートは現地で購入しました。

もし日常で使用するものでこだわりのあるものなどがありましたら、持っていくのがよいと思います。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

ビザの関係上必要単位数というものが存在し、それを満たす形で 2 つの授業をとりました(各 3 単位、計 6 単位)。一つは Introduction to Human Physiology という授業で人間生態学全般を扱うものでした。人数は 60 人くらいでした。月水金 9-11 時講義があり、それとは別に 1-2 時で週 2 回 Discussion session という大学院生が講義の内容を整理する review session のようなものがありました。講義はパワーポイントと講義ノートが事前にクラスのサイトにアップされた状態で予習は可能でしたが私は特にせずに復習を重視しました。授業中には選択問題を専用の端末を用いて回答し理解を確認することや(出席確認も兼ねられていました)議論を求められる小問に取り組むこともありました(場合によって回答をインデックスカードに書いて提出することもありました。また授業後には毎回宿題があり、次の授業までにサイト上で回答するものでした(イントロ授業ということもあり選択問題からなるシンプルなものではありません)。週 1 回 1 週間の内容のまとめの 10 分間 Quiz があり、8 週間で 4 週目と 8 週目に 2 度に分けて一回の授業を

丸ごと使ったの試験がありました。やはり、全体として印象に残っていることは授業中に先生が「質問があるか」と質問した際に手を挙げ発言する生徒が多かったことです。基本的なことではありますが、実際にその場でわからないことが質問されることは日本ではあまりないと思います。

もう一方の授業は College Writing-English for science and engineering という授業でした。英語論文を書いてみよう、という趣旨の授業でした。英語を外国語とする人のための授業で(18人と少人数クラスで、英語を苦手とする人にもかなり手厚いサポートがありました)、すこし英語のレベルとしては物足りないものがありました。水金 2-4:30 の授業に加え自分で宿題として取り組む課題は多く、書く練習は多くできたと思います。

②学習・研究面でのアドバイス

日々コツコツ復習していくことは大切だと思います。寮で暮らしていて、友人も多くの宿題意を抱えている人が多かった。一緒に学習する習慣もありましたが、それに加え立派な図書館で勉強するというのもいい機会です。とても気持ちよく、勉強する習慣をつけるのに役立ちました。複数あったので、渡り歩くのもおすすめです…！平日は勉強し、休日は遊ぶという切り替えも大事でした。

また、授業を選ぶ際ですが、早めに決めないと人数の上限に達してしまう場合があるので気に留めてください…！

③語学面での苦勞・アドバイス等

実は私は二つ目の授業は現地で履修変更をしたものでした。当初は社会学の授業を履修していたのですが、専門外であった上にかなりの読書量を授業時間外に求められそれがかなり厳しく感じられたので、変更したという経緯がありました。場合によってはレベルに合わない授業をとってしまうという可能性もあるかと思いますが、履修訂正も手続きを踏めばできるので、落ち着いて office の担当者と連絡をとり、自分のレベルに合った授業、自分の興味に合った授業を受講できれば良いと思います。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Residence hall unit 2 という大学の寮で暮らしていました。3000ドルほどで、3人で一部屋をシェアしていました。大学のサイトでわかりやすい位置に紹介されていると思います。かなり多くの学生が利用しており、寮のイベントも多々開催され、友達を作り、多くの人と交流できるいい機会がたくさんありました。また寮の建物内に study lounge、敷地内に computer center という学習スペースがあり、勉強する環境が自分の部屋以外にも整っていました。また洗濯も寮内に洗濯機乾燥機が完備されており、学生証のカードを使用して支払いをすることができました(1回4ドル程度と少し高め、学生証のカードにお金をチャージできました)。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

とても過ごしやすい気候でした。朝は 16、7 度と少し涼し目で上着が必要な感じで、お昼は 22 度前後と春のような感じでした。大学周辺は学生街ということもあり、お店があり、食事できる場所も多くありました。夜遅くなければ一人で歩くのは全く問題ないと思います。また、大学周辺多くのバス路線があり、慣れるまではどの路線を使用しているかなどわかりにくいことも多かったですが、近くの都市サンフランシスコまでの路線もあり、summer session のみの学生も含めバークレー生は学生証を提示すれば無料で使用することができました。またキャンパスから 10-20 分の所に BART という鉄道が走っていました。空港からくる際、そして少し遠出する際は使用していました。BART ではサンフランシスコに 4 ドル程度で行くことができます。本数がこちらの方がバスより若干多い印象だったの使用することもありました。食事は平日等基本的には寮から 3 分ほどのところにある crossroads という食堂に行っていました。実は寮のプランにこの食堂を使用するためのポイントが含まれており、毎食分ではありませんが、ほとんどをそこで食事ができるくらいにはポイントが付与されていました。食堂はサラダバーもあるバイキング形式のものでした。8 週間もいると少し飽きることもあり、外で食事したいと思うときもあったので、たまに近くのお店で食事することや、週末は出かけ先で食事しました。お金は 600 ドル現金を持っていき、後はカードを使用していました。基本的にカードで暮らせますが、細かい買い物や友人と割り勘、という際は現金の方がやはり使いやすかったです。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

かなり正直に書きますが、驚いたことに大学の周りにはかなり多くのホームレスの方がいて、はじめはびっくりしました。しかし、特に襲うなどということはないので、深夜に一人で出かけるのはさすがに控えていましたが、それ以外は、大学周辺は特に心配することはなかったように思います。友人と一緒にいれば、深夜に少し出かけて、ピザやタピオカジュース(Boba といい、人気でした)を買いに行くことはありました。医療機関については使用しておらずほとんどわかりません。滞在中に少し熱っぽくなることもありましたが、日本から持ってきていた薬でしのぎました。心身の健康のためにはまずは無理をしないことが大事だと思います。慣れない環境にいただけでかなり疲れるので、特に最初は時差ボケもあったので、疲れたと思ったときは無理せずに寝てよく休みました。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

約 100 万円

航空賃 10 万円、授業料(手続き代込)3450ドル、教科書代(レンタルものを使用、向こうでは主流です)25ドル、家賃+食費(上記の食堂に使用できるポイント)3000 ドル、交通費娯楽費旅行費等(現金とカード合わせてお土産等も含め最終的に)20 万円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO+東京大学の奨学金計 32 万円

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

平日は寮のイベント、また international student 向けのイベント、大学のジム(プールも使用可、期間中 10ドルでいくらでも使用可というものを申し込みました)

週末は寮の trip、サンフランシスコ観光、ヨセミテ旅行、場合によっては大学周辺でのんびり、といった感じで友人とともに過ごしました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

多くのサポート態勢が整えられています。それぞれについて office があるので、わからないことはすべてメールで質問すれば 1, 2 日で対応してもらえます。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

スポーツ施設は上記の学習以外の活動で書いたとおり、セッション中無制限で使用できるジム、プール(RSF と調べればできます)がありました(申し込みが必要、10 ドル)。図書館は複数あり、学習スペースも整っています。オンラインで本を予約し、確保する、というシステムも整っています、ぜひキャンパスを歩き回ってみてください。食堂は上記の crossroads、そして、さらに売店もありました。PC は寮にはそういう施設があり、図書館にも設置されており、プリンターともつながっていました(日本と同じ程度の値段で、学生証のカードにチャージしたお金を利用する形)。ただ、自分のノートパソコンを持って行った方が便利だと思います。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

このプログラムは私にとってかなり意義の高いものになったと思います。はじめての留学、はじめての寮生活、はじめてのアメリカ、はじめてのことが多く、最初の方は大変な思いをすることもありましたが、多くの人と交流し授業にも慣れていく中で楽しむことができるようになっていきました。この経験を通して以前と比べより積極的に人とかかわることができるようになってきていると思います。そして、今後もつながっていたいと思える友人を作ることができたことは非常に大きな得たものだと思います。またやはり日常的に使用する言語が英語だったため、会話においてはレベルアップできたと思います。なにより、さらなる留学に対する自分の関心が大きく高まったことが大きな変化だと思います。

②参加後の予定

まだ決まってはいませんが長期の留学をしたいと思っています。時期としては来年または大学院進学後を検討しています。また、将来の職業に関しても日本国内にとどまらないような職業、というのを条件の一つとして考えていきたいと思っています。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

今後長期の留学を考えている方も、漠然と留学してみたいと考えている方も、行くことで少なからずたくさんの良い影響が受けられると思います！また、パークレーは非常に学生にやさしい街、過ごしやすい場所だと思いますので、心配することなく行けると思います。

一つだけアドバイスですが、とにかく手続きはなんでも後回しにせず早めに進めるとスムーズですし、希望した通りの授業、寮が選べます。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

ビザの申請等についてはかなりインターネットで一般的な体験談などから情報を得ることはありました。実際に留学に行った人から聞くとかなり手続きの流れが分かりやすくなると思います。そういう知り合いの方がいれば、インターネットよりもわかりやすいと思います。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 工学部計数工学科

参加プログラム: Summer Session E 派遣先大学: UCBerkeley

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界: 金融) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

カリフォルニア大学バークレー校は州立大学では全米トップ、また科学分野でもアメリカ有数の大学になっています。

参加した動機

大学院留学の前に夏のサマースクールに参加することにより、アメリカの大学を理解するとともに、将来の進路選択の幅を広げるため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
バークレー校は住居を抑えるのが難しいため、プログラム派遣が決まったのちすぐに手配することをすすめます。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
学生ビザ申請時に東大の学生証も合わせて出すと早くおります。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特になし。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

特になし。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)
TOEFL を一度受験しました。スピーキングを特に練習すると良いと思います。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
バークレーは夏でも夜は冷えるので服装の準備を欠かさず行ってください。またクレジットカードを作りましょう。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
人種というテーマについて、ユーモア、映画、視覚表現を通して学びました。リーディングの課題が毎回 30 ページほど出されるため、復習と付属課題の読み込みの時間が特にかかりました。ユーモアが、既存の社会に存在している構造を覆すための武器になるというのが特に印象に残っています。

②学習・研究面でのアドバイス
リーディング課題が特に多い為、行く前に専門分野を英語で学ぶという経験をしておくとよいと思います。

③語学面での苦勞・アドバイス等
スピーキングを鍛えていたため、あまり感じませんでした。外人と多く話したり、英語を使った活動に積極的に参加して準備をすることを勧めます。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

現地の友人に連絡して泊めてもらいました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

乾燥しており、あまり暑くない。アジア系のレストランが多く点在していました。

いくつも ATM があるので、city bank で口座を作っておくと良いと思います、

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
海外のため、早寝早寝おきをして体調を整えました。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費 13 万円 授業料 2000ドル 家賃、教科書代 0円 食費300ドル 交通費 100ドル
娯楽 100ドル

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

奨学金 東大と JASSO から合わせて 16 万円、FUTI から 4000ドル

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
スポーツセンターでのレクリエーション

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

インターナショナルオフィスで手続きのサポートあり。他のサポートは特になかったです。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は多く点在しており、他にもレクリエーションセンターや、植物園、アートギャラリーが近くにありました。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

このプログラムでは自分の専門とは関係のない、人文系の授業を履修しました。アメリカに残る人種の問題をユーモア、映画、写真を通して分析するというもので自分にとっては目新しいものでした。原理からスタートして多くのものを導く理系の学問スタイルとは違い、一つ一つの事象から何を言いたいのかを汲み取り、そこから隠れた人種間に存在する力の差がどのように形成されているか、また力関係をどのようにユーモアやその他の表現方法が覆えているかを学びました。文系の議論の進め方は目新しいものであり、さらに英語で 15 ページの小レポートを書き、最終試験も受けることで、英語で議論を深められるようになったことが成長の一つだと思います。

②参加後の予定

大学院における留学をかんがえています。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

新しい経験を多くできるこのプログラムはオススメです。チャンスがあれば参加してみてください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):薬学部3年

参加プログラム: UC Berkeley Summer Sessions 派遣先大学: UC Berkeley

卒業・修了後の就職(希望)先: ①.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

UC Berkeley はカリフォルニア州バークレーにある州立大学です。
世界の大学ランキングでも上位に位置しています。

参加した動機

今後の進路・学生生活について考える材料にしたいと思い、参加を希望しました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

手続きはオンラインで行います。ひたすら指示に従えば大丈夫です。
宿泊先(学生寮)や航空券の予約、クラスの選択など、とにかく早めに済ませることが大事だと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

F-1ビザで入国しました。ビザの手続きはアメリカ大使館のホームページにある通りです。
ビザの取得はできる限り早く行うべきだと思います。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

6月に本郷で健康診断(毎年受けるもの)を受けました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

付帯海学の保険に入りました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

夏休み中だったので特にありません。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

1年次の3月に受験したTOEFLは91点でした。
出発直前になって手続きやその他準備に追われていたため、英語の準備は結局できませんでした。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

向こうで生活に必要なものは揃うので、常備薬など絶対に必要なもの以外は特に心配しなくていいと思います。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

Academic Speaking と American culture のクラスを履修していました。(Neuroscience など理系のコースが取りたかったのですが、手続きをサボっていたせいで履修できませんでした。)

授業は少人数 or クラス全体でのディスカッションが中心で、加えてフィールドワークも行いました。ホームワークは毎日課され、TED やインターネットラジオを聴いてノートをとりその内容について翌日発表する、キャンパス内でインタビューをしてその結果と自分の考えを翌日発表する、プレゼンテーションの準備をする、などが中心でした。とにかく話す機会が増えるように授業や課題が組まれていて、非常に充実していました。

②学習・研究面でのアドバイス

履修するクラスによっては授業+ホームワークでかなりの勉強量になると思います。
まずは出された課題に集中して取り組むことが重要だと思います。

③語学面での苦勞・アドバイス等

もっとリスニング力を上げてから留学に行くべきだったと感じています。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Berkeley YMCA という簡易ホテルに滞在しました。過去の参加者の体験記でこれを知りました。
家賃は一日54ドルだったと思います。大学と地下鉄の駅が近いので便利でした。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
朝夜は冷え込みますが、昼間は暑いです。半袖の服と羽織るものを持っていくといいと思います。
公共交通機関(バス・地下鉄)が発達しており、利用者も多いです。
食事は大学周辺に飲食店がたくさんあるので困らないと思います。I-House、Residence Hall などの寮にはビュッフェ形式の食堂があるようです。
お金は現金・クレジットカードを持っていきましたが、ほとんど現金で払っていました。クレジットカードはほぼすべての店で使えます。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は良いと思います。特に危険を感じることはありませんでした。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSO の奨学金 80,000
「東大生海外体験プロジェクト」による奨学金 80,000

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
サンフランシスコ観光に行きました。レンタサイクルの店が多く、サイクリングが楽しめます。サンフランシスコは坂が多いので、いい運動にもなると思います。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
サポート体制はあるようですが、使わなかったのでもわかりません。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)
図書館・スポーツ施設・PC 環境は非常に充実していました。
食堂はあるのかないのか知りませんが、多くの人がキャンパス南の通りでお店を探しているようでした。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

- ・英語のスピーキング・リスニングの力が大きく伸びました。3 週間ほとんど英語しか使わなかったため、かなり英語になれることができました。
- ・積極性が向上しました。自分から行動すれば何かしら得られるものはある、ということを何度も経験しました。
- ・煩雑な手続きや一人での海外生活を経験したことで自信がつけました。今後も留学の機会をさがし、また挑戦してみたいと思うようになりました。
- ・バークレーの文化はとても魅力的でした。多様性に富んだりベラールな雰囲気は、日本では経験できないものであったように思います。「場」を体感することの意義を知りました。

②参加後の予定
学部での勉強に専念します。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
少しでも参加してみたい気持ちがあるなら参加するべきです。お金はかかりますが、得られるものも大きいと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

過去の参加者の体験記

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 東京大学工学部電子情報工学科 3 年

参加プログラム: 東京大学奨学金付き夏季短期留学プログラム 派遣先大学: カリフォルニア大学バークレー校

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

1.研究職または 6.起業

派遣先大学の概要

カリフォルニア大学バークレー校は世界一の公立大学で、サンフランシスコの近くに面しています。研究レベルも非常に高く、シリコンバレーに近いので勉強するにはもってこいの大学だと思います。

参加した動機

シリコンバレーに興味があり、将来的にもそこで働きたいと思っているので、その近くの大学院に進みたいと思っています。なので、この大学はうってつけでした。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

参加手続きは時間に余裕をもって行動して下さい。また、同じプログラムに参加する人同士で情報交換なども重要だと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

オーストラリア留学中にビザ申請したので大変でした。ブリスベンから飛行機でシドニーまで行って、ビザの申請をしなければならなかったのが、日本国内の申請よりは大変だと思います。共通して言えることは早め早めの行動が大切です。現に、後数日手続きが遅ければ、アメリカ大使館の手続きがストップしてビザ申請が出来ないところでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

ありませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

オーストラリア留学中の海外旅行保険を延長しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

所属学部には代理人を通じて手続きを行いました。特別は手続きはしていません。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

留学先から直接いったので、特別なことはしていません。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

何か日本らしいお土産を持って行くとても喜ばれます。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

私は教育と会計学を履修しました。会計学の方は特別な授業ではありませんでしたが、教育の方では、グループディスカッション、グループプレゼンテーションなど積極的に授業にコミットする内容で非常に為になりました。

②学習・研究面でのアドバイス

予習がとても肝心です。

③語学面での苦労・アドバイス等

リスニング力は大事なので、十分養っておくことをお勧めします。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学の寮に住みました。二人でルームシェアでしたが、とても楽しかったです。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

夏でも夜はとても冷えて、厚めの長袖が必要でした。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

また、大学周辺なのにもかかわらずホームレスがたくさんおり、夜出歩くのはとても危険です。基本的にアメリカでは治安が悪いということを頭に入れておかなければなりません。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃往復 25 万

授業料 30 万

寮費(家賃、食費込み) 30 万

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東大の奨学金プログラム : 30 万

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

健康には気をつけているので、ランニングはほぼ毎日していました。大学内にジムもあり助かりました。

週末は友達と観光に行くことが大半でした。レンタカーを借りて遠出したり、近場のサンフランシスコで観光したりしました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

オリエンテーションなどが豊富だったので、活用しようと思えばサポートは充実していると思います。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館はたくさんあり、どれを選ぶか困るぐらいですが、日曜は午後から、平日もそこまで夜遅くまではやっていないなど、稼働時間の面ではあまりよくは無いかもしれません。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

アメリカの文化、大学の雰囲気などを肌で感じられて良かったです。また、もともとオーストラリアに留学してからの直接参加だったので、特にオーストラリアとの違いなども分かりとても有意義でした。

②参加後の予定

大学卒業後はアメリカの大学院に進みたいと考えています。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

参加してマイナスになることはありません。今しか出来ないことなので、ぜひぜひ参加をしてください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部文科一類二年

参加プログラム: Berkeley Summer Sessions Regular Courses (Session D) 派遣先大学: UC Berkeley

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) ③.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

世界大学ランキングの上位校であり、公立大学の中ではトップ。様々な分野でトップクラスの研究が行われており、ノーベル賞受賞者を多く輩出している。

参加した動機

今後の人生における長期留学や海外勤務などの選択肢を広げるために、時間に余裕がある今のうちに留学の雰囲気や体験しておきたいと考えていました。そのためにも英語力をつけておきたいという思いと、英語が苦手であり好きではなかったのをこれを機会に英語に親しみたいという思いがあり、参加を決意しました。UC バークレーを選んだのは、その目的を達成するためには英語圏がよいと思ったのと、スコアが悪かったので英語圏の大学だと選択肢が限られていましたがそのなかでは一番レベルが高く環境が良さそうだったからです。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

参加を決めるのが遅く、東大に応募するときに数日で書類を用意しなければならず大変でした。留学先の治安や利便度、物価や気候などを何一つ考えずに応募してしまいましたが、少し後悔することもあったので、学業に関する部分だけでなく留学生活全体のことを考えて選んだほうが良いと思います。バークレーの手続きのときには、反省を生かし、連絡が来たらすぐに手続きをするようにしていました。バークレーの手続きやビザの申請や学生証の発行など、(インターネット上で提出という場合もありましたが)証明写真が必要な場面は多く、要件も少し厳しかったように思います。これらのことを考慮して、早めに写真を用意しておくことをおすすめします。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

F-1 ビザを米国大使館に申請しました。必須かどうかはわからないのですが念のため高校の成績証明書を用意したため、申請するまでに1ヶ月ほどかかりました。また残高証明の発行も少し時間がかかりました。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

海外で歯医者にかかるのは大変だと聞いていたので、気になっていた親知らずを念のため抜きました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学で指定されたものに入りました。クレジットカードにも保険がついていました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

教務課に相談しましたが、単位認定はできないと言われました。履修登録の段階で留学期間と試験期間が重なることは分かっていたので、必修以外はほとんど履修しませんでした。留学中に必修の試験が2つ行われる予定でしたが、先生と交渉して代替試験を用意していただきました。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

IELTS6.0、TOEIC750でした。(IELTSのほうは要件を満たしていなかったため応募にはTOEICの結果を使いました)英語学習があまり好きではなかったため応募が通るまでは特に何もしていませんでしたが、決まっからは主にリスニング対策をしました。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

インターネット上で配布された資料を授業に持ち込まなければならず、レポートやPowerPointの提出も多いので、タブレットにせよPCは必須だと思います。ちなみに、大学でも寮でもバスの中でもどこでも、大抵の場所で無料でWi-Fiが使えます。気温が低く、特に朝夕は冷えるので、7月8月の留学であっても長袖の服を持参したほうがよいです。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

American Historyというエネルギー政策の変遷に関する授業を2単位、Geographyを3単位とりました。前者はupper coursesのため既習者向けで、留学生が少なかったです。講義を受けたあと予習してきた資料をもとにディスカッションをするという形式で、調べたことに基づく発表とPowerPoint作成、小テストと期末試験が課されまし

た。

Geography は lower courses のため初学者向けで、主にアジアからの留学生がいました。毎回予習用の資料を読むことと、3 回に 1 度はその資料に関するレポートを書くことが課され、授業では資料に基づいて少人数の話し合いや全体のディスカッション、グループワーク、発表などを行いました。毎週小テストがあり、期末は試験形式でした。

どちらも復習は課されていませんでしたが、授業では以前学んだことと結びつけて発言することが求められたため、実質的に復習は不可欠でした。

②学習・研究面でのアドバイス

初めの授業で提出物などの課題や試験の配点を具体的に知ることができ、課題やテストの点数もすぐ返ってくるので、あらかじめ成績の目標を決めたうえで計算しながら勉強の予定を立てるといいと思います。完璧に全てに真面目に取り組むのもよいですが、部屋にこもって勉強するだけで留学生活が終わってしまうのも勿体ないと思ったので、配点が高い課題に重点的に取り組むようにしていました。

Geography では生徒の提案により「一番悪い小テストの点数は成績に含めない」などの対応をしてもらい、オフィスアワーに相談すると課題の期限の延長など特別な対応をしてくれたという話も他の留学生からよく聞きました。困ったら周りの人や先生に相談してみるといいと思います。

③語学面での苦勞・アドバイス等

読解のスピードが遅く、徹夜してもいつも課題を読み終えることはできませんでした。上に書いたことの繰り返しになってしましますが、周りに相談してみるのが一番です。同じ授業をとってる留学生に相談したところ、読み終わらないと悩んでる人が多いことがわかり、皆で先生に「難しい部分は解説してもらおう」「読む部分を減らしてもらおう」などの提案をして解決しました。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

International House でした。約 3100 ドルで、料理が 40 食ついていてとても美味しかったです。毎週 Coffee hour というパーティーのようなものが開催されて、友達を増やすことができました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

朝晩はかなり冷え込み、長袖を2枚重ねても寒いと感じる日もありました。

寮周辺はそうでもありませんでしたが、駅の近くや Telegraph Avenue の南などは路上生活者などが多く治安がかなり悪かったです。

バスは無料です。地下鉄で30分ほどでサンフランシスコに行けます。ただどちらも本数は日本と比べると少なく、場所によっては一人で待っているのが危ないこともあるので、あらかじめ時間や治安などの情報を確認してから出かけたほうがいいです。ガイドブックに載っているような場所でも実際に行ってみると雰囲気が悪かったり女子が一人で行くには危険だったりします。はじめての場所に行く時には特に、行ったことのある人に話を聞いたり誰かと一緒に行ったりするのをおすすめします。外出は7時半～18時にするようにしていました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安に関しては上に書きました。特に体調は崩しませんでした。部屋にこもりがちなので授業後は散歩をしてから帰ったり、栄養バランスが悪くならないように野菜ジュースを飲んだりしました。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費+授業料等(約3000ドル)+教科書代(50ドル)+寮(約3100ドル)+その他現地で使ったお金(約800ドル)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

受給しませんでした。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

友達と野球見に行ったりご飯を食べに行ったりしました。また一人で何度かサンフランシスコにお土産を買いに行きました。周りの留学生のなかにはあらかじめツアーを予約してロサンゼルスなど遠くまで遊びに行っていた人もいて、行く前に考えておくべきだったと後悔しました。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

東京大学でいうITCLMSのようなものがあり、そのシステムを通じて資料が配布されたり成績を閲覧したりすることができるのですが、先生や他の履修者に質問することもできるので分からないところを解決するのに便利でした。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館がとても広く様々な分野の本が揃っています。所々にカフェがありよく使いましたがとても雰囲気がよかったです。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

話には聞いてはいましたが、やはり海外の大学は勉強量が日本より多く、もっと勉強しなければと良い刺激になりました。

た。他の留学生や現地の学生との会話を通して、日本では当たり前とされている「専門科目を学んで卒業したら就職する」以外の選択肢もあるのだと気付かされ、今後の進路を考えるにあたって参考になりました。

また、授業のディスカッションで多様な人々に出会う経験を通して、差別や貧困、環境問題などに対する価値観の違いを知ることができました。自分が当たり前だと思っている考え方が世界では少数派だったり、日本の制度が世界的には先進的で優れているとされていたり、たくさんの発見がありました。語学に関してのみならず勉強になりました。

②参加後の予定

前から考えてはいましたが、今後どこかで1年ほど海外の大学院で勉強するのもいいなあという思いが強くなりました。また、大学在学中にもう一度、ここまでハードな勉強ではないプログラムで別の国の生活を体験するのも面白いかなあと思うようになりました。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

6週間のサマープログラムは、短い語学留学よりもしっかりと留学の雰囲気を楽しむことができ、かといって進級や就職に不利になるほど長くもなく、金銭面の問題を除けば失うものは少ないので、興味があったらチャレンジしたらいいと思います。特に長期留学するか迷っている人にとっては良い判断材料となると思います。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

大学の Go Global にある体験記を読みました。

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):工学系研究科航空宇宙工学専攻 修士二年

参加プログラム: 短期奨学金付き SP 派遣先大学: U.C Berkeley

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:コンサルティング) 6.起業 7.その他()U

派遣先大学の概要 U.C Berkeley
参加した動機 英語能力の向上のため 人生経験として
参加の準備 ①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) 参加の手続き自体は難しいことは特にありませんでした。国際交流課のスタッフの方々が親切に説明、アドバイスして下さるので留学に興味の有る人は是非話だけでも聞きにいくと良いと思います。 ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) F1ビザ 申請にかかった期間は恐らく1ヶ月ちょっとだったと思います。ただ、僕の場合手続きを始めるのが遅くギリギリになってしまい出国直前まで本当に行けるのかととても不安になったので早めに手続きを開始することを心からお勧めします。目安としては3ヶ月前に始めると余裕を持って取得することが出来ると思います。手続き自体はややこしく面倒ですが、YouTube に動画での説明等があり大変わかりやすいので活用すると良いと思います。 ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 特になし。 ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) プログラム参加に当たって必須であったもののみ ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 特になし。 ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) 参加に必要な英語のレベルは決して高くありませんが、出発までに出来る限り英語力を高めておく方が良いです。寮等に入る場合他国から来る人は英語ではなく、法律や経済を学びにきている学生も多くそういった学生達はかなり英語が出来ます。英語力が高い方がそういった人たちとスムーズにコミュニケーションを取れ、友達にもなりやすくより充実した留学になると思います。また、英語の授業を取る場合事前にクラス分けテストを受けるのですが、上のクラスと下のクラスでは授業内容や講師の質、学生のレベルも全く違うので質、レベルの高い授業を受けるためにも事前の勉強は非常に重要だと思います。 ⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 案外なんでもこちらで手に入るのでも特に必要ないです。テニスができるならテニスラケットを持って行くと人気者になります。あと、@berkeley.edu のメールアドレスを取得すると facebook 上の berkeley のグループ(local student もみんな入っている。メンバー約5万人)に入ることが出来、物の売買や部屋を探すことが出来たりするので便利です。あと、国際免許証はあるとかなり便利なので是非持って行って下さい。日本の免許証だけでは車を貸してくれないところがほとんどですが、遊びに行く時に車が無いと不便です。
学習・研究について ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) 完全に取り授業によります。基本的に宿題は多いですが、どこまで一生懸命やるかは本人次第なので遊ぶ時間も作ることも出来ます。基本的に ESL の授業等 summer student 向けの授業は緩く、local student 向けの授業は厳しい傾向にあると思います。 ②学習・研究面でのアドバイス 元々の目的、何を学ぶために留学に来たのかを常に意識すること ③語学面での苦労・アドバイス等 グループワークやネイティブとのグループディスカッションで発言するのは大変難しかったです。英語力の問題なので難しいですが、これに対するアドバイスとしては少人数のグループに入る、優しそうの人を見つけるくらいだと思います。。。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Unit2という寮の3人部屋に入りました。家賃は2ヶ月半、ご飯に使えるポイント付きで3800ドルくらいだったと思います。I-houseに入る人も多いと思いますが違いとしてはどちらも漁で使えるミールポイントがついているのですがUnit2のミールポイントは学校内のカフェ等でも使えるがI-houseの方は使えない。ちなみにミールポイントは大量にあり、僕の周りに全部自分で使い切っている人はいませんでした。雰囲気はI-houseの方が派手で、Unit2の方が落ち着いているイメージでした。(今回の夏に限って、または僕の周りに限ってかもしれませんが。) 見つけた方法は UC Berkeley の housing サイトからでした。最初 I-house に申し込んだのですが、時期が遅く部屋をゲットできず、他を探していた所 Unit2 を見つけ、無事申し込むことが出来ました。いずれにしろ寮に住みたい場合部屋探しもどぎざ同様に開始しないと非常に苦労することになります。また waiting list に入るだけでも大体申込金がかかるのでお金のムダにもなります。僕の周りで寮を見つけれなかった人は craigslist, airb&b などを使って現地の生徒と交渉してシェアルームを人が多かったです。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

大学周辺のバスは学制書を持っていけば使い放題で便利でした。また BART という地下鉄も夜遅くまであり交通に不便したことはありませんでした。さらにカリフォルニアは UBER という格安タクシーのようなシステムが非常に普及しているため行く際はアプリをダウンロードしていくと良いと思います。食事は色々レストランがあるので発掘すると面白いと思います。近くに薬局兼スーパーのような店もあるのでそれも非常に便利でした。ただ、大体の店は早い時間にしまってしまうのでそれは不便でした。お金はクレジットカード 1 枚とキャッシュパスポートというもので現地の ATM で引き出していました。ただクレジットカードはいざという時のために 2 枚持っておいた方が良いかと思います。実際僕は現地での旅行の飛行機を 6 人分立て替え、限度額に達してしまい少し不便な思いをしました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

ホームレスは多いですが治安に関しては全く問題ないです。夜中に一人で歩いても何もありませんでした。ただ外は暗いので女の子の場合は不安に思うかも知れません。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

大体ですが

航空券 8万 授業料 50万 教科書代 3千円 家賃 45万 食費・娯楽 自分次第。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO 月 8万円×3回

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

これと言って特別なことはしていませんが、テニスラケットを安く買って大学のフリーのコートで遊んだり、週末は色々な所へ旅行に行ったりしていました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

特にお世話になっていませんが授業料が高い分サポート等はしっかりしているイメージで頼れば大体のことは対応してくれているようでした。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

夏学期中ジムが 10ドルで使い放題で設備もかなり整っており、様々なクラスに参加することが出来、非常に有用でした。その他も画題学の設備に不満をかんじたことはありませんでした。強いて言うなら wi-fi がつながりにくい所が有るくらいです。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

僕自身の最大の目的は英語能力の向上だったのですが、正直そこまで大きく上達した実感はありませんでした。ただ、確かに改善した所もありましたし、何より自分の英語のどこが悪いのかということに気付かされることが多く今後の英語勉強のためになり、またモチベーションも非常に上がりました。英語以外の面でも、さまざまな国籍の人々と出会い自分と異なる人やものへの抵抗が少なくなったように思います。何より今までとは全く異なる環境の中で生活することが楽しく、新鮮な日々を過ごすことが出来自分の人生の中で忘れることの出来ない経験となりました。

②参加後の予定

留学で学んだことを活かして英語の勉強に一層励むとともに、本来の自分のすべきことである修士論文のための研究に励み、また同時に残された学生生活を精一杯楽しみたいと思います。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

少しでも興味が有る人は是非検討してみると良いと思います！サポートの環境は国際交流課の方々を整えて下さっ

ているのであとは自分で調べ、申し込むだけです！経済面でも奨学金制度が整っているのです色々探せばかなり助けになるはずです！僕自身非常に有意義な経験をさせて頂いたので、是非後輩のみなさんにも興味を持ち同ような体験をしてもらいたいと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

UC Berkeley のサイトを読むだけで十分だったと思います。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):工学部工学系研究科システム創成学専攻

参加プログラム: 派遣先大学:UC バークレー

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
⑤.民間企業(業界:未定) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

パブリック・アイビーの一枚である。アメリカの公立大学のランキングでは長期間にわたり1位を維持している。

参加した動機

各国の大学生とレベルの高い大学において交流をしてみたかった。
自分の英語力がどのくらい通用するものなのか知りたかった。
実際に日常に使われる英語がどのようなものか体感したかった。

参加の準備

- ①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
進められるものは早く進めておくに越したことはないです。特に宿泊先は大事だと思います。
- ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
アメリカ大使館に行く必要があったりするので早めに申請しとくといいです。
- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)
特に何もありませんでした。
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
勧められたものだけ加入しました。
- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
試験期間とかぶっていたので一回目の授業でどのような対応をしてくださるか各授業の先生に尋ねました。
事務室にも留学する旨の書類を提出しました。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)
IELTSを受けました。
- ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
車の運転をしたい人は国際免許証を取得しておくといいでしょう。旅行で国際免許証をもっているドライバーが少なくて苦労しました。

学習・研究について

- ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
二つのコースを取りました。ひとつは Globalization という授業で留学生以外の生徒も取れる授業です。課題は多い方でした。ネイティブスピーカーとディスカッションする機会もあった授業でした。もうひとつが English for science and engineering という授業です。課題は少なく楽な授業だったと思います。自分のグループが考えた新しい商品をプレゼンすることが最終プレゼンであり、自由な雰囲気アメリカっぽい授業だと思いました。
- ②学習・研究面でのアドバイス
周りとの比較によると課題が多いか少ないかは授業によって大きく変わるようです。
- ③語学面での苦労・アドバイス等
速いスピードで話すネイティブスピーカーは良く何を言っているか分からなくなりました。ネイティブスピーカーは独特な表現も使ってきます。試験のための英語を集中的に勉強してきた人は映画やドラマ等で日常会話の英語にも慣れておくことをおすすめします。意外と留学生は簡単な英語でゆっくり話してくれるので聞き取りやすいです。ただ中東や南アジアにからきている留学生とのコミュニケーションはアクセントが独特なため難しかったです。

生活について

- ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
I-house という宿に泊まりました。70 カ国以上の国から 600 人ほどの学生が住んでいるらしいです。そこには留学生だけでなく、UC バークレーの生徒さんや他のアメリカの大学からきている人、学部生からドクターの人など本当に

様々な人たちと友達になれました。毎週水曜の夜に coffee hour という企画があり(他にも色々企画がありました)、友達も作りやすい環境でした。いろんな国の人とコミュニケーションを取りたかった私にとっては最適の場所だったと言えます。カフェテリアがあるのですが夕食時に Can I join you? などと尋ねたりして色々な国の人とその国のことや日本のことを話しました。私の場合は授業で友達を作るような雰囲気ではなかったので寮の友達を大切にしていました。ただ人気があってすぐ埋まってしまうらしいので早く予約するのいいと思います。私の場合も偶然空きができて入居することができました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
ほとんど雨は降らなかったです。昼と夜の寒暖差が激しいので寒くても大丈夫なようにしておくのいいと思います。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は悪くないと思います。夜遅いと酔っぱらった学生に絡まれたりするかもしれないので気をつけた方がいいです。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
週末の旅行に誘われたりすると行きたくなくなってしまうので余分にお金はあるのいいと思います。私は一応クレジットの限度額を増やしてから留学にいきました。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
奨学金は申請しませんでした。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
週末はサンフランシスコ、ロサンゼルス、サンタクルース、ヨセミテ国立公園などに旅行に行きました。特にサンフランシスコは無料のバスがあるので数回行きました。レンタカーを借りてどこかに行こうという話も珍しくなかったので免許証を持っている人は国際免許証を発行しておくのと良いと思います。重宝されます。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
満足でした。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)
I-house に 24 時間の図書館がありとても便利でした。大学の設備も充実していたと思います。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
英語に関して最も感じたことは、実際に使われている英語と私が勉強してきた英語のギャップです。結局のところ、私が勉強してきた英語の多くはセカンドスピーカー向けに話された発音も文法も“綺麗”な英語がほとんどです。もちろんそのような英語が大切であることは言うまでもないのですが、そのような英語だけではネイティブの会話にはついていけないことに気づきました。適切な表現かは分からないですが、いわゆる“汚い”英語の学習の必要性を感じました。ネイティブの人は思った以上に必要ないところは発音しないです。ごによごによ言っているようにしか聞こえません。そして会話独特の表現も多用してきます。日本語に置きかえて考えてみても、日本語学習者用の教材しか読んでいない外人が私たちの普段の会話に自然にとけ込めるかという疑問に思います。私たちが普段会話で使う日本語は書籍にはあまり載っていないと思います。ではどこで使われているか。それは映画、ドラマ、アニメで使われているでしょう。要するに英語学習者向けの英語だけでなくネイティブのために話された英語をもっと聴く必要があると思いました。それはレベルも高く、より大変で、多くの時間を要するでしょう。しかも会話独特の表現を覚えても英語資格の試験には反映されにくいと思います。それでも私は将来、様々な国籍の人とビジネスの関係だけでなく日常の友人として付き合っていきたいと思っています。そのためにはぎこちないかつちりした英語だけでなく少し崩れた自然な英語、実際の日常会話で使われる英語を学ばなければいけないと感じました。

②参加後の予定
留学の経験が無駄にせず英語の学習に励みたいです。もしできればまた来年留学して自分の成長を実感したいです。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
短期留学の場合、その期間中に何か自分の能力を伸ばすというのは難しいと思います。例えば、私は6週間いましたがその間に英語を飛躍的に向上させることや国際感覚を完璧に身につけることは期待していませんでした(多少は伸びたし、身についたと実感しましたが)。それよりもその短い期間で何を感じたいかしっかり目的意識をもって留学するのいいと思います。そしてその日本では気づけなかったことを今後どのように生かすかが大切です。持論ですが、短期留学が有意義であったかどうかはその期間中に決まるのではなく、留学を終えてから自分が何を、どうか変わったかで決まると思います。短期留学という新しい環境下で自分に足りないものを感じ、それを数年かけて伸ばしていくのが短期留学の有効的な使い方が気がします。
ということで目的意識をもち、現地では積極的に行動してみてください。意外な発見に出会ったりすると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 学際情報学府・修士2年

参加プログラム: Berkeley Summer Sessions (Regular course) Session E 派遣先大学: UC Berkeley

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他(博士進学)

派遣先大学の概要

バークレー校はカリフォルニア大学の発祥地であり、10大学からなるカリフォルニア大学システム(UCシステム)の中で最も古い歴史を持つ。ハーバード大学など同国東部の名門私立大学学群の集まりである「アイビーリーグ」に対し、西部を中心とする名門公立大学の集まりである「パブリック・アイビー」の一角である。世界の公立大学ランキングでは長期間にわたり1位を維持している。

参加した動機

自分の研究テーマと一致している論文を探している中、バークレー校の社会福祉研究科のお二人の先生の作品はよく出てくる。研究科自体も「aging service」というサブコースが存在しているので、バークレーへ留学できたら直接にと思って応募した。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

プログラムを決定する前に科目選びを始めた方がいいと思います。なぜなら時間が合うだけでは必ず好きな授業が取れるわけではありませんから。両方とも考えたうえで決めるのが一番です。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

サマーセッションで米国へ渡航するため、留学ビザを取る必要があります。ギリギリまで申請を出してしまい混雑な場合に(とくに夏頃)、間に合わない恐れがあります。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

最低限必要なものを用意しました(風邪薬、バンドエイドなど)

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

手続きは複雑ではありませんが、締切に注意ください。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

とくにありませんでした。学務係に海外渡航届を提出するだけです。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFLはすでに取ってありますので、申請には便利でした。

出発までに毎朝TED Radio Hourを聞いていました。専門用語がよく出る番組で耳を特訓しました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

インスタンドラーメンなど二日間くらいの運びやすい食料品(車が持ってない場合にアメリカでの移動は不便、近くにスーパーがなければより一層。アメリカの習慣が慣れるまでの準備を少しでも。もちろん外食もオッケー。)

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

今回私が選んだのはAmerican Studiesのコースでした。(事前調査不足のせいで、念願の社会福祉学は時間が合わない為やめました。)全コースは三つの授業がありまして、それぞれAmerican Humor, American Visual Culture, American Filmsとなっています。人種問題について色々な議論をしてきました。授業はほとんど説明、ディスカッション、Q&Aというサイクルで行われていました。

②学習・研究面でのアドバイス

期末テストをパスするには先生方の指示を従えば十分ですが、せっかくバークレーに来て授業で紹介された資料や書籍はみんな素晴らしい学習材料です。時間があれば図書館でエンジョイするのもオススメです。

③語学面での苦労・アドバイス等

全く知識背景のない前提でバークレーに行きました。英語だけではなくて、どうやって英語を通じて先生の伝えないメッセージを受け取るかは重要です。クラスメートとランチを一緒にしたり、わからないところを聞いたり、助教の学生にメールで問い合わせするなどは肝心です。

生活について

①宿泊先(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など

バークレーの University Village のルームシェア。家賃:30ドル/日。UC Berkeley の学生向けの BBS。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

7月から8月はサンフランシスコで一番過ごしやすい時期です。朝晩は肌寒いくらい。

University Village から学校まで毎日無料(学生カード提示で)でバスが乗れる。

現金持参は控え目。ほとんどどこでもカード解決できる。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

バークレーの南部(オークランド方面)はサンフランシスコの中で一番治安の悪い地区だと言われます。私がバークレー市に滞在している間に危な目には遭わなかったです。噂ほど危険さがなさそうです。ただし、ホームレスが集まるコミュニティなので、できるだけ一人で行動せず明るいうちに宿泊先に帰ること。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃:156680円 授業料:2068ドル 家賃:720ドル 食費:500ドル 交通費:100ドル 娯楽費:200ドル
合計(概算):約5000ドル

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

Jasso 80000円

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

ボランティア活動: The Aging Services Division at the City of Berkeley

週末の過ごし方: サンフランシスコ散策、美術館巡りなど

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

先生方は授業でものすごく留学生のことを配慮してくれました。グループワークは必ずアジア系の学生と当地の学生を組んで共同作業を行うこと。生活上では Cal Card を持っていれば近くのお店やいくつかのレストランでも学割があります。それに、無料バスは毎日使えます。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

総合図書館はキャンパスの中心部にあって通いやすい位置です。PC やプリンターが使えます。ジムは学生カードで自由に入出できます。食堂は定額のブフェの形です。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

恐れず学問を追究するのは時間と勇気をかけるものであります。結論を出せるため学問を続ける意味が薄い。ただひたすら勉強して問題提起して自分の中に既存する価値観を問う、また戦うのは学生または学者としてのユニークな楽しさです。それを忘れずに徹底的に

②参加後の予定

今後は長期でアメリカに留学したいと改めて考えるようになりました。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

超短期プログラムで何も学べないと思ったら大きな間違いです。分野が違ってても授業の雰囲気や現地の学生とのコミュニケーションからいろいろ良い刺激が得られます。今後学者になろうとビジネスマンになろうとグローバル人材になるのに努力するのは当然なことです。国際的な対応力を意識的に育てるべきであると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

<http://bcssa.us/bbs/forum.php?mod=forumdisplay&fid=43>

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

授業後にキャンパス内の芝生で教師と学生が BBQ を楽しんでいる場面を見かけた

授業後にバークレーの総合図書館で資料を調べながらレポートを書いていた



授業後にキャンパス内の芝生で教師と学生が BBQ を楽しんでいる場面を見かけた



授業後にバークレーの総合図書館で資料を調べながらレポートを書いていた



期末試験の終わった教室

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):工学系研究科都市工学専攻修士一年

参加プログラム: 夏期短期留学 派遣先大学: UC バークレー

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

<p>派遣先大学の概要 UC バークレー カリフォルニア州バークレーにある大学。</p>
<p>参加した動機 海外に滞在し同世代と交流することは良い経験となると考えた。 語学力の向上を図った。</p>
<p>参加の準備</p> <p>①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) 部局によって締切日が違います。また締切日が学期末だったりすると忙しいので計画的に行うべきです。</p> <p>②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) ビザはF1ビザでした。手続きが多く時間がかかります(一か月ぐらい)ので早め早めに行くと良いでしょう。</p> <p>③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 特にせず出発。しかし私の場合は現地で乾燥によって肌が荒れたので多少の準備はした方が良かったと後悔しました。現地にも病院や薬はあるので過剰になる必要はないと思います。</p> <p>④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 大学の方で準備して頂いた保険のみ</p> <p>⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 教授と相談して研究科において必修の研究発表を留学後に延期して頂きました。</p> <p>⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) 特になし</p> <p>⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 保湿クリーム、簡単な英会話の勉強、パソコン</p>
<p>学習・研究について</p> <p>①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) 講義2つ、計13時間/週 講義の前に課題読書を読みそれに基づき先生がレクチャー、議論。現地校の生徒の中には全然読んで来ない人も多い。</p> <p>②学習・研究面でのアドバイス 現地生徒とのコミュニケーションを重視するのであればそれほど時間をかけすぎるべきではないと思いますが、一方で課題読書を読んでおくことで単語や言い回しを覚えそれをすぐに会話で使って練習するというのもできるのでうまくバランスを取ることが重要だと思います。</p> <p>③語学面での苦労・アドバイス等 始めは講義を全く聞き取れませんでした。課題読書などを読んでいくうちに専門単語なども覚え、段々慣れてくるので大丈夫だと思います。</p>
<p>生活について</p> <p>①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) Berkeley Student Co-op 家賃:二ヶ月で25万ぐらい 現地校に通っている生徒が多く留学生はほとんどいない。汚い。食事は自炊だが材料は置いてあった。</p> <p>②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) 非常に乾燥している。滞在期間中で雨が降った記憶がない。</p>

食事は 10 \$ 弱。お金はクレジットカードを主に使用。

意外と朝晩は寒い。基本的に朝晩は上着を羽織る。たまにコートを着ている人がいる夜もある。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

他の寮で強盗が入ったこともあったので全く問題ないとは言えないが、基本的には問題はなかった。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

約 100 万円

授業料 50 万、航空運賃 15 万、宿舎 25 万、その他。ほとんど自炊したので食費はほとんどかからず。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO から 16 万円頂きました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

友達とのキャンプをしばしば。たまに居酒屋で飲み会。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

語学面では、先生には大いに気を使ってもらいました。事務関連も聞き取れない場合ゆっくりしゃべってくれるなど気を使ってもらいました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は良く使いました。wifi は建物内はあります。屋外では大抵使えません。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

日本との違いを知ることで日本を見つめ直すきっかけとなりました。現地は多様な人がおり、そこが日本との大きな違いと感じました。例えば出自の違いによる関心の多様性が挙げられます。現地の人は親が中国からの移民だったり、他にはインド、メキシコなどの移民であったりして、同じアメリカ人でも多様なルーツがあり、それが関心の多様性を生んでいました。例えばある人はアジアの貧困問題に興味があったり、ある人はヨーロッパの移民問題に興味があるなど。これは日本との大きな違いでした。また文化慣習の違いという概念も肌で感じました。例えば、日本人は知らない人に対する警戒心が強いのに対し、現地の人は非常に寛容でした。また、現地の人と比べると日本人は非常に細かいことまで気にするという印象も残りました。様々な経験をしましたが自分ひいては日本を見つめ直す良い経験となりました。

②参加後の予定

研究室にて修論を進める予定。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

意外となんとかなります。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。